

世界合唱シンポジウム(WSCM10) 参加申し込みはもうお済みですか？

3年に一度、世界中から最高レベルの合唱団、プレゼンター、合唱音楽家が集まって、アイデアと演奏技術、レパートリーを共有し、親睦を深めます。世界各地の“同好の音楽家”が集う、こうした合唱イベントは、3年に一度だけです…… IFCMは新しいメンバーが参加し、新しい“同好の士の友情”を、国を越えて築くのをお待ちしております。

とき： 2014年8月6日～13日

ところ： 韓国 ソウル

詳しくはこちらをごらんください。 www.wscm10.com

WSCM10にはこんな合唱団も参加します

harmonia ensemble (ハルモニア・アンサンブル)

2009年設立の日本の室内合唱団。団員は世界青少年合唱団で歌ったメンバーと音楽大学でプロになる教育を受けた若い歌手たちです。指揮者を置かず、皆で意見を出し合い、自発的に音楽を作っています。レパートリーは、ルネッサンス音楽から21世紀までの合唱作品のほか、ポップス、ジャズ、民俗音楽と多岐にわたっています。



The Manado State University Choir (マナド国立大学合唱団)



インドネシア北スラウェシ州で生まれた、団員24名の混声室内合唱団。指揮者はAndré de Quadros (アンドレ・デ・クワドロ)。西洋のカノン、振り付けしたインドネシアの伝統音楽、ポピュラー音楽、東南アジアの合唱音楽、と幅広いレパートリーを持ち、その芸術性の高い美しいサウンドには定評があります。彼らはインドネシアを代表するだけでなく、世界の合唱音楽の向かう新たな方向を示しており、時代感覚に富んだ異文化間の架け橋を作ることで、合唱と伝統音楽の再評価に貢献しています。

The Choir of the John Paul II Catholic University of Lublin (ヨハネ・パウロ2世ルブリン・カトリック大学合唱団)

1921年設立。ポーランド屈指とされる合唱団。1998年からは、Grzegorz Pecka (グジェゴシュ・ペツカ) が指揮者・芸術監督を務めており、その指導のもと、ポーランド各地で演奏し、さらにヨーロッパ全土、北アメリカ、南アメリカ、オーストラリア、アフリカのフェスティバルにも参加しています。レパートリーには、ルネッサンス期から現代までのポーランド内外の作曲家による声楽曲、合唱付き声楽曲を持っています。



会員ニュース ECA-EC ヨーロッパ合唱曲作曲家賞2014

ヨーロッパ合唱曲作曲家賞は、AGECヨーロッパ合唱協会が長年実施してきた黄金の音叉賞の後身で、2011/2012年度に、ヨーロッパ合唱連盟が創設したものです。この賞の目的は、ヨーロッパ各国からまだ世に知られていない優れた合唱曲を発掘することにあります。発表済みの作品でも新たに書かれた作品でも、興味深い曲であり、トップレベルの合唱団だけでなく、標準的な合唱団が演奏できる曲であれば、賞の対象となります。

2014年ヨーロッパ合唱曲作曲家賞の応募はすでに始まっています。受賞作品は2015年の第19回ヨーロッパ・カンタートで演奏されます。詳しくはこちらをごらんください。

http://www.openassos.fr/fileadmin/user_upload/12097/images/fichiers_pdf/EuropeanAwardforComposers2014_Regulations.pdf

フレンドシップ・アンバサダー・プログラム

フレンドシップ・アンバサダー・ファンデーション（FAF）から合唱指導者旅行助成金、アイルランド親善旅行のお知らせです。FAF2014年親善旅行助成金にご応募ください。アイルランドへの5泊6日の旅（2014年2月13日～18日）を無料提供します。詳しくはこちらをごらんください。
<http://www.faf.org/main/transformative-cultural-exchanges/destinations/familiarization-trips/>

訃報 モニク・ルセンヌ氏（1937年7月25日～2014年1月16日）

大変悲しいお知らせです。モニク・ルセンヌ氏がこの世を去りました。彼女はヨーロッパの合唱界には欠かせない“大立者”で、数々のプロジェクトの企画と実行に深くかかわり、IFCMの活動の原動力となっていました。

ルセンヌ氏は、ベルギーのアントワープ大学で考古学を学び、卒業後も同大学の考古学部に勤務しました。しかし、その情熱の対象は音楽、特に合唱音楽でした。1967年、彼女はフランダース青少年合唱連盟でボランティアとして働きはじめます。そこで国際的な役割を果たし、やがてヨーロッパ青少年合唱団連盟＝ヨーロッパ・カンタートで精力的に活動するようになります。彼女は、合唱週間プロジェクト、コンクール、セミナーなどの企画・運営に携わりました。また、フランダースの合唱団の国際合唱コンクールへの出場や、3年ごとのヨーロッパ・カンタート・フェスティバルの企画・運営にも非常に深く関わりました。65歳の誕生日に、彼女は公式に引退——しかし、それによって何がどう変化したのかほとんどわかりません。彼女は相変わらず、アントワープとその周辺地域の合唱週間プロジェクト、子供のための合唱の日、指揮マスタークラス、世界青少年合唱団2009のアントワープ開催、とさまざまなイベントの運営に携わり続けたのです。75歳の誕生日には、ペースを落とし、活動を“制限”すると決め、その後は、フランダース合唱協会の理事を務めながら、コンクール地区予選の準備をしたり、子供のための合唱の日や国際合唱週間プロジェクトの指揮を執ったり、国内外のコンクールやフェスティバルに出席したり、いろいろな音楽学校から新たな才能を発見すべく目を光らせたり、世界青少年合唱団の募集活動を行ったりしていました。（略歴提供：フランダース合唱協会。その他の情報はこちらをごらんください。 www.koorenstem.be）



訃報 ラース・エドlund氏 (1922年11月6日～2013年12月21日)

ラース・エドlund氏は、スウェーデンの作曲家、オルガニスト、音楽教師です。彼はスイスのパーゼル・スコラ・カントルムでイナ・ローア氏とともに教会音楽学びました。また、グレゴリオ聖歌に刺激を受けて、晩年はカトリックに改宗しています。1940年代初頭、彼は教会音楽家として仕事を始め、それとともに、スウェーデン王立音楽アカデミー、ストックホルム音楽大学で教師も務めました。1971年以降は作曲活動に専念しました。彼の作品のほとんどが声楽曲であり、その多くに宗教的もしくは実存主義的テーマの歌詞が付いています。作品の一部は、1986年版スウェーデン教会聖歌集 (the 1986 hymnal of the Church of Sweden) に収められています。経歴と作品リストはこちらをごらんください。

<http://www.mic.se/avd/mic/prod/micv6.nsf/docsbycodename/soekresultat?opendocument&fraga=Lars+Edlund>

ご意見・ご感想をお寄せください

IFCMは、わたしたちのプロジェクトや合唱関係の諸問題について、みなさんのご意見、ご感想を聞きたいと願っています。“HAVE YOUR SAY” はIFCMのウェブサイトの重要な項目です。ぜひお便りをお寄せください。

IFCM会員の団体および合唱団のみなさんへ

このニュースレターを団員のみなさんに配布するのをお忘れなく！

2月のイベントカレンダー

6-12日: China Meets Australia Chinese Culture Festival, Sydney, Australia - www.master-music.cn

8日: European Spring Chor-Festival, Austria - www.musikverein.at

14-17日: Choral-Orchestral Conducting Masterclass, New York, USA - www.chorusamerica.org

18-20日: Choral Dialogue EURASIA Cantat Workshops and performances, Yekaterinburg, Russian Federation - www.eurasia-cantat.ru

19-23日: 12th Festival Musica Religiosa Olomouc, Czech Republic - www.festamusicale.cz

19-23日: 2nd Guam Pacific Choral Festival Hagatna, Guam - www.festamusicale.com

20-23日: 4th International Sacred Music Festival Kaunas Musica Religioza, Kaunas, Lithuania - www.kaunascantat.lt

21-23日: 3rd International Gdansk Choir Festival, Poland - www.gdanskfestival.pl

21日: Ínin 2014 on the Path of Peoples, Your Voice for One Earth Choir, Global project on seven continents - www.inin2012.net